

図書紹介

富澤 暉 陸自60著

『軍事のリアル』

井上廣司 陸自72

本書は、マスコミや学者の方々に評価された『逆説の軍事論』を受けて、より多くの方に安全保障について理解を得たいとの強い思いで書かれている。そのため、事例を数多く引用するとともに著者の経験を踏まえた説明で分かりやすくなっている。

次の文を読んで頂きたい。
「侵略された国が自由を守るための戦争は正しい戦争と言って差し支えないと思う。この憲法草案に戦争一般放棄という形でなしに、我々はこれを侵略戦争の放棄、こうするのがもつとも適確ではないか」「国家正当防衛権による戦争は正当なりとせらるるやうであるが、私はかくの如きことを認めることが有害であると思ふのであります」

これは、憲法9条に関する1946年の国会問答で、前段が共産党野坂参三議員、後段は吉田茂首相だと言えば、驚く人もいるだろう。反対にすれば現在の自民党と共産党の問答とも見えなくもない。

このように、本書は、一般国民の視点から見ても、「えっ、そうなの」と

感心させられるような事実を数多く例示している。安全保障の専門家が、時に勘違いしそうな論点を一つ一つ丁寧に説明している。中には、小泉総理や著名な教授の発言を取り上げて、矛盾を分析している。結果として、国民をミスリードしてきた内閣法制局の責任を厳しく追及している。

特に「集団的自衛権」と「集団安全保障」の違いについては、事例を挙げて説明しており、この項目だけでも一読に値する。

本書の読み方として、クイズ形式で読むのも面白い。例えば、「戦争を放棄しているのは日本だけか？」の問いに「スイスなどの中立国と日本か」と考える。「米国向けの弾道ミサイルを日本が迎撃できるか？」の問いに「法的な問題がクリアになれば、出来る」と答える。正解は、読んでみてのお楽しみである。多くの国民、特に安全保障にある程度の知識がある人がはまりそうな畧が、本書のいたるところに仕掛けられている。

これから安全保障に深くかかわってくる自衛隊の若き幹部諸兄や、これまでかかわってきた経験者に読んでいただき、ハナ高の安全保障論をあちこちで展開して頂きたい。

出版 新潮社

電話 03-3266-5430

定価 760円(本体価格)